

H 2 4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく指導方法等の改善計画

広島市立大州中学校

1. 調査内容

(1) 教科に関する調査 (国語, 算数・数学, 理科) ※理科はA・Bを一体的に出題

主として知識に関する問題 [A問題]

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題 [B問題]

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

2. 調査結果

全国学力・学習状況調査 正答率

([A : 主として知識] [B : 主として活用])

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
学 校 (%)	75.2	60.8	62.9	46.9	48.0
広島県 (%)	75.3	63.6	62.4	49.8	50.2
全 国 (%)	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0

3. 指導改善計画

	主な課題	要 因
国 語	①基本的な言語事項はほぼ身につけているが、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題が見られる。	○反復練習により漢字の読み書きの力はついているが、語彙を増やすことに結びついていない。
	②目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題が見られる。	○授業の目標は明示しているが、具体的な読みの目的を意識させることが不十分である。
	<課題解決に向けた国語科における具体的実践>	
	①国語辞典を使って語句の意味を調べるときに、文脈にあった意味を判別したり、文中の語句を他の語句に置きかえたり、短文をつくらせたり、語句の意味を正しく理解して使えるような学習場面を増やしていく。	
	②何を意識しどのような視点で文章を読んでいくか、具体的な目的をはっきりと示し、読み取りの学習を進めていく。	

	主な課題	要 因
数 学	①B問題 (主として活用に関する問題) が、広島県や全国の平均と比較しても正答率が低い。	○問題を正確に読み取り、理解することが苦手である。
	②「数学的な見方や考え方」の観点の、「記述式」の正答率が特に低い。	○説明するということが苦手意識を持った生徒が多い。
		○発表で説明させると、一部の生徒の説明をみんなで聞く形になり、個人個人の活動になっていない。
	<課題解決に向けた数学科における具体的実践>	
	○各単元の中で、数学的な表現力を高める活動を取り入れ、実践していく。	
	・問題文を正確に読み取り、理解する。(アンダーライン、図式化)	
	・個人で考える時間の確保。	
	・少人数での交流・発表。	・自分の力で記述し、まとめる。

	主な課題	要 因
理 科	①理科への関心が低い。	○観察・実験で確認できたことと、日常生活との結びつきが弱く、理科に関心が持てていない。
	②記述式の問題が苦手である。	○知識の理解度が低く、記述を求められるとあきらめてしまう。
	③無解答の率が高い	
	<課題解決に向けた理科における具体的実践>	
	○実験・観察はしっかりやってきているので、実験・観察の技能はついているが、その実験で何がわかったのか、日常現象の何が理解できるのか、学んだことを、自分の言葉でまとめ、日常の自然現象に結びつける取り組みを入れる。	
	○授業の中で考えて、表現する内容を増やし、自然がわかるって楽しいという感覚を育てる。	
	○定期試験などに文章で表現する質問を増やし、Dataを基に、考えを文章で表現する場を増やす。	

学力向上へ向けた全校的な取組 (課題解決に向けた具体的実践)

- ①授業の目標を明確にし、意欲・関心を喚起して、授業展開の工夫をはかる。
- ②基礎基本を定着させ、授業内容でも「考える場面」「発表する場面」が多くなるように、各教科で取り組む。
- ③小テストを適時行い、結果を指導に活用し、課題解決に向けた取り組みをする。
- ④小グループを活用する学習場面を、毎時間の授業に位置づけ、生徒ひとりひとりが自分の考えを説明したり、仲間の考えを聞いたりする活動を増やす。